

公益財団法人 8020 推進財団  
平成 27 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：フロリデーション(水道水フッ化物濃度調整)についての啓発活動

2. 申請者名：公益社団法人 富岡甘楽歯科医師会

3. 実施組織名：

富岡甘楽歯科医師会、富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町、下仁田町健康づくり推進協議会  
下仁田町保健推進員協議会、下仁田町フロリデーション推進会議、住民組織、日本口腔衛生学会(学術支援)

4. 事業の概要：

富岡甘楽歯科医師会は、WHO(世界保健機関)が推奨する最も優れた公衆衛生的なむし歯予防対策である水道水フロリデーションを、富岡甘楽地区に普及させたいと考えている。フロリデーションが実施されれば、子供から高齢者まで、給水地域で生活する住民すべてが、生涯を通じてむし歯予防の恩恵を受けることが可能になり、健康格差の解消にもつながる。フロリデーションの実施により、むし歯が大幅に減少すれば、国が提唱する8020運動の実現に大きく貢献する。さらに、歯が残り咀嚼力が保持されることにより、全身的な病気の予防や健康増進にもつながり、将来は健康寿命の延伸や医療費の抑制に結びつくと考えられる。

富岡甘楽歯科医師会は、15年以上にわたり、一貫してフロリデーションを推奨してきた。平成24年4月に公益社団法人に移行したが、「住民のむし歯予防を目的に最良の公衆衛生的な対策である水道水フッ化物濃度調整(フロリデーション)を啓発する事業」が、会が実施する公益目的事業として明記されている。今後、国、県、学術団体などの積極的な支援があれば、フロリデーションを実施するための環境が整うと考えている。

5. 事業内容：

富岡甘楽歯科医師会は、フロリデーションの実施をめざした啓発活動の一環として、市町村や関係団体と連携して下記の事業を実施した。活動の内容は、教育媒体の開発と配布(2)～(11)、啓発現場活動の実践(1)(13)(16)(17)、広報活動(12)、組織活動(14)(15)など、多岐にわたっている。

- (1) 歯と口の健康週間行事「歯と口の健康フェア 2015」(第30回)を開催(フロリデーション啓発コーナーを設置)
  - (2) パンフレット「歯周病を防ぐには」(発行 公益社団法人富岡甘楽歯科医師会)の制作と配布
  - (3) パンフレット「フッ化物でむし歯予防」の配布(平成26年度事業からの継続)
  - (4) リーフレット「一生自分の歯で食べるために」(平成24年度版)の配布(平成24年度事業からの継続)
  - (5) リーフレット「一生自分の歯で食べるために」(平成23年度版)の配布(平成23年度事業からの継続)
  - (6) リーフレット「フロリデーション 水道水とフッ化物でみんなの歯を健康に」の配布(平成22年度事業からの継続)
  - (7) リーフレット「フッ化物でむし歯を減らす いろいろな方法」の配布(平成21年度事業からの継続)
  - (8) リーフレット「Do you know Fluoridation?」の配布(平成20年度事業からの継続)
- (5)(6)(7)(8)は、発行:富岡甘楽歯科医師会 監修:厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」
- (9) フロリデーション啓発用の風船配布(歯と口の健康フェア、親と子のよい歯のコンクール、夏祭り、健康祭等で利用)
  - (10) フロリデーション啓発ポスターの掲示(平成19年度事業からの継続)
  - (11) クリアファイル「知っていますか? フロリデーション」の利用(平成20年度事業からの継続)
  - (12) 富岡甘楽歯科医師会のホームページの充実(フッ化物利用とフロリデーションについての情報を提供)
  - (13) フッ化物洗口説明会を利用した啓発(フロリデーションが最も優れた公衆衛生的なむし歯予防法)
  - (14) 富岡保健福祉事務所の歯科保健連絡調整会議(フロリデーションについても意見交換)
  - (15) 富岡保健福祉事務所の富岡地区地域・職域連携推進協議会(委員2名からフロリデーション推進の発言)
  - (16) 下仁田町保健センターに設置されたフロリデーションモデル装置の活用(フロリデーション水の試飲等)
  - (17) 下仁田町フロリデーション推進会議主体の活動(定例会の開催、夏祭りへの参加、健康祭への参加など)

6. 実施後の評価(今後の課題)：

富岡甘楽地区では、市町村の協力によりリーフレットを全世帯に配布するなど、フロリデーションについての情報を継続的に提供できる体制が整備されている。その結果、フロリデーションについてある程度の知識を持つ住民は、子供を持つ親たちの世代を中心に毎年確実に増加してきた。反面、政策決定に大きな影響力を持つ50代、60代の人たちは、フロリデーションについての認知度が低い。これまで、むし歯予防対策について直接的に情報提供する機会が少なかったためだと考えられる。フロリデーションについて正確な知識を持つ人は、その実施についても肯定的な意見を持つ場合が多いので、今後はより幅広い世代を対象に正確な情報を提供し、啓発活動を継続していく必要がある。住民のフロリデーションに対する認知度がさらに高まり、国、県、学術団体などの積極的な支援があれば、フロリデーションを実施するための環境が整うと考えている。